

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第66号 2015年3月

発行人：吉田 博行 編集長：地田 博昌 事務局長：安藤 孝
事務局：〒152-0002 目黒区目黒本町6-4-16 Tel 03-3716-7477

2015年 新年会を開催

2015年目黒稲門会新年会は、1月18日(日)目黒雅叙園「華しずかの間」にて開催された。会員・ご家族90名、来賓2名、現役学生4名、応援部からチアリーダー2名、計98名の盛大な新年会だった。

午後4時、笠谷興一朗幹事の司会で、第1部講演会が開会。講師の母校応援部監督・竹沢久喜氏が紹介された。竹沢氏は「早稲田大学応援部の裏話」と題して約1時間の講演を行った(要旨後述)。



暫し休憩の後、再び笠谷幹事の司会で第2部懇親会に入った。始めに吉田会長が新年の挨拶を述べた。

吉田会長挨拶



『明けましておめでとうございます。講演では応援部のまじめな姿が良く分かった。今日は、90歳の先輩から1歳の赤ちゃんまで、100名近い稲門の友

が集うかつてない盛大な新年会です。当会は、会員相互の親睦と地域貢献、ボランティアに励んでいる。今年は未年だが、羊は群れをなして行動する。安泰、平和の意味がある。干支にちなんであやかりたい。皆様楽しんで頂ける会にしていきたい。稲門会の更なる隆盛にご理解ご協力頂き、平和で穏やかな年にしていきたい。』

次に青木目黒区長より挨拶があり、箱根駅伝での早稲田の健闘を讃え、区政の報告を行った。

乾杯の発声は、猪名川幹事によっておこなわれた。

猪名川幹事は挨拶の中で、目黒稲門会の女性比率が増えていることを紹介した。

歓談に入り、恒例の初参加会員紹介が行われ、吉野博明、田添麻友、細谷 清、佐藤光伸、小林一光の各氏が挨拶した。



(左から吉野、田添、細谷、佐藤、小林氏)

歓談が進むと、式次第にないサプライズで、米寿の安藤虎雄氏、海口昭治氏、外岡 明氏に花束の贈呈があった。



稲垣ボランティア部会長より、新たに目黒稲門会として取り組む「サクラ基金」について説明があり、善意の募金と呼ばけられた。

宴たけなわとなり、竹沢応援部監督とチアリーダー2名で「紺碧の空」の普段と違う本格的な応援実技の披露があった。引き続き、全員起立しての校歌斉唱。竹沢監督の指導で熱の入った「都の西北」を斉唱した。



「ワセダ、ワセダ」の応援実技の余韻を残しながら、永田幹事が中締め挨拶をおこない、午後7時お開きとなった。(田島 記)

竹沢応援部監督講演要旨

[母校応援部の歴史と精神を、150枚のスライドで紹介]

応援部は、時代の変遷により変わっている。明治38年安部磯雄先生は、日露戦争下にアメリカに野球遠征を挙行。野球部より米国の応援の話聞いた吉岡信敬は応援隊を作った。ヤジ将軍と言われ、馬に乗って応援に駆け付け、バットを振り回して指導。「フレーツ、フレーツ」のエールを日本で初めて行った。応援団同士の争いで、明治39年から大正14年まで19年間早慶戦中止。

昭和2年「若き血」ができて慶応が勝っていく。昭和6年、早稲田の「紺碧の空」は、当時無名の古関裕而ら2人が作った。徹夜で詩と曲を作り、作曲代は当時2円50銭のペナントだけ。この「紺碧の空」で早稲田の快進撃が始まる。

昭和8年、リング事件。早慶戦で慶応の水原茂が審判に抗議。早稲田の学生が水原にリングを投げ、これを水原は投げ返した。早稲田は逆上し、慶応は逆転勝利。終了後早稲田の学生が慶応応援部に押しかけ、指揮棒を盗んだ。以来、早稲田は応援部廃部。

昭和10年、各体育会から委員を募って応援。昭和15年、現在の応援部が創部。早稲田応援の父と言われる野中虎之助が大学職員で監督となり、勝利の拍手など考案した。昭和17年戦時色強くなり、体育会は休部。応援部は、学徒錬成部として規律統制の指導をしていく。昭和18年、最後の早慶戦。

昭和21年大学公認部となる。昭和24年、早稲田勝利の写真には、右端に外岡教授(外岡相談役の父

君/野球の殿堂入り)も見えた。

昭和27年、応援部のバンドができた。

昭和35年早慶6連戦があり、引き分け、また引き分けで第6戦まで行った。6万2千人収容の神宮球場に8万人が並んだと言う。当時日本シリーズが4万人だった。

昭和40年秋に「コンバットマーチ」ができて、昭和41年、慶応に連勝。昭和52年、六大学中最後にバトントワラーズ隊が誕生。この時の新人が昭和55年に幹部になり、昭和57年、副将も各パートから出て三位一体となった。一斉にタバコの煙を吐く「煙幕作戦」というのもあった。今は禁止されている。

早稲田の応援テクニクは、歌舞伎の六方にヒントを得ている。今後、怪我対策、コーチ陣の充実、ECO、文武両道の早稲田アスリートプログラム(WAP)、など課題は多い。今後も「たくましい根に美しい花を」をモットーに発展させていく。

新年会出席者(敬称略、五十音順)

(来賓)

青木英二・目黒区長、竹沢久喜・講師

(現役学生)

神谷佳奈、竹山翔太、出崎毅哉、前田 隼

(チアリーダー)

末松知紗、池内文音

(会員・ご家族)

朝比奈義雄、阿部喜久雄、荒瀬修一郎、安藤 孝、

安藤虎雄、安藤嘉昭、石川智子、市瀬一江、

市瀬達夫、伊藤 悠、稲垣博信、猪名川一雄、

井村正陽、岩佐幸子、岩佐好恭、岩崎春雄、

岩崎正夫、岩田 修、鶴野洋治、海口昭治、

大内秀明、大久保健治、大杉邦雄、大竹一子、

大野利幸、尾崎 充、小野 満、笠谷興一郎、

梶 恵作、柏木 博、加藤榮護、加藤令夫人、

金井豊男、狩野俊夫、川井信義、川崎真樹子、

菊地崇之、木村昭一、小池早苗、郡山弘文、

郡山令夫人、後藤克彦、小林一光、佐久間 喬、

佐々木芳子、佐藤光伸、澁谷美香、嶋田勝彦、

島田久家、高野 孝、高橋圭吾、田島順一郎、

田添麻友、堀合 努(田添)、堀合義統、堀合摩利、

堀合将統、田畑 繁、地田博昌、千野逸平、

手塚仁雄、外岡 明、外岡令夫人、永井正孝、

長島清志、永田耕治、中西千可子、中西元樹、

中西令夫人、成田隆一、服部尚彦、林田雅敏、

林田令夫人、細谷 清、堀井良造、松田哲也、

眞仁田 勉、丸山忠生、水野弘文、村上 柁、

村山 弘、保井 正、柳澤秀樹、山口優幸、

吉田博行、吉田令夫人、吉野博明、吉野令夫人、

吉本政治、吉本令夫人